

## “意外”な？！語釈クイズ

多賀糸絵美 齋藤華子

フォーラム 2014 の最後には、辞書の語釈を皆で考える、会場参加型クイズを実施しました。解答用紙とペンを配り、何人かのグループで、いくつかの語の語釈を考えて発表していただきました。以下、参加いただいたみなさまからの語釈例とともに、当日の様子をご報告したいと思います。

### ◆例題「動物園」

これからみなさんにいくつかの問題を出しますので、その問題に出された語についての語釈を考えていただきたいと思います。お配りしましたボードを使っていただき、まわりの方と相談して、語釈を考えてみてください。

ではまずは例題を出したいと思います。語釈を考えていただく語はこちら「動物園」です。みなさんが辞書で「動物園」という語を引いたとき、そこにどんなことが書いてあるか、また、どんなことが書いてあったら動物園の語釈になるか、ちょっと考えてみてください。じつは、この「動物園」という単語の語釈は少し前に、この語釈はちょっとどうなのか、という“抗議”がなされたことがあります。

まずは日本語を収めた日本最大の国語辞典といわれる『日本国語大辞典』に載せられている語釈を見てみましょう。

**「各地から各種の動物を集めて飼育し、一般の人に見せる施設。」**

となっています。次に、『岩波国語辞典』を見てみますと、

**「各地から各種の動物を集め、できるだけ自然の状態で飼っておく施設。観覧者を入れる公園ふうのものが多し。」**

と書かれております。そして抗議をうけてしまった『新明解国語辞典』の第4版がこちらです。

**「生態を公衆に見せ、かたわら保護を加えるためと称し、捕らえて来た多くの鳥獣・魚虫などに対し、狭い空間での生活を余儀なくし、飼い殺しにする、人間中心の施設。」**

少し厳しい言い方がされていますね。現在この語釈は改変され、「啓蒙を兼ねた娯楽施設」であるというような語釈に直されています。

このように、同じ語を引いても、語釈は辞書によってさまざまな書かれ方をしています。今日はみなさまにも、いくつかの単語についてどのように説明をすればいいのか考えてみていた

だきたいと思います。

#### ◆第一問「左」

では第1問にまいります。1問目のお題はこちら「ひだり」です。それでは、お手元のボードのかつこ【 】の中にまずは「ひだり」と書いて、まわりの方と少し話し合っ、て、「左」の語積を書いてみてください。「左」という語について、日常生活の中では辞書を引いてみるということはおそくないのではないのでしょうか。そのような、知っていて当然の語でも、辞書には語積を付けて載せなくてはなりません。その場合、どのような書き方をすればよいのか、考えてみましょう。



それでは、答え合わせをしていきたいと思います。辞書の語積を見える前に、皆さんに書いていただいた語積を少し発表していただきますよう。

#### 《会場の解答》

##### 【ひだり】

- ・北を向いた時に西の方向
- ・正面を向いた時に西になる方
- ・自分が北を向いたときに西にあたる方向
- ・茶碗を持つ方
- ・右の反対
- ・新明解辞書の「明」の字の「日」の方
- ・Suicaで改札を通る時Suicaを持たない手の方
- ・方向の片方。もう一方は右
- ・心臓のある側
- ・南を向いて、東
- ・自分の体でいう心臓側
- ・日本で車や自転車が走る側
- ・「ひだり」の「ひ」側

実際に辞書に載せられている語積を見ていきましょう。まずは『日本国語大辞典』です。

「正面を南に向けたときの東側にあたる側。人体を座標軸にしている。人体では心臓の通常ある側。また、東西に二分した時の東方。」

次に『岩波国語辞典』。

「相対的な位置の一つ。東を向いた時、北の方、また、この辞典を開いて読む時、奇数ペー

ジのある側を言う」。

『新明解国語辞典』では、

「アナログ時計の文字盤に向かった時に、七時から十一時までの表示のある側。「明」という漢字の「日」が書かれている側と一致。また、人の背骨の中心線と鼻の先端とを含む平面で空間を二つの部分に分けた時に、大部分の人の場合、心臓の搏動を感じる場所がある方の部分。」

このように、本来この語の意味を知ろうとして辞書を引くことはない語であっても、辞書には語釈があるということがおわかりいただけただけでしょうか。

ではここで、ちょっとスペイン語の辞書も見てみましょう。スペイン王立アカデミーの辞書 *Diccionario de la lengua española* と、学習辞典としても役に立つ *Diccionario Clave*, *Diccionario Salamanca* を見てみたいと思います。

【izquierdo, da.】

Dicho de una parte del cuerpo humano: Que está situada en el lado del corazón.

(*Diccionario de la lengua española*)

Referido a una parte del cuerpo, que está situada en el lado del corazón.

(*Diccionario Clave*)

[Parte del cuerpo] que está situada en el lado que corresponde al del corazón de una persona.

(*Diccionario Salamanca*)

どの辞書も「人体の心臓のある側をさす」との説明です。日本語の辞書の方が、方角や時計、また漢字表記の特徴まで活かして、多様な説明がなされているのがわかります。

## ◆第二問「愛」

第二問は「あい」です。今度はこの抽象的な概念について、語釈を考えてみてください。「あい」とは何でしょうか。それでは、またボードに「あい」と書いていただいて、考えてみてください。



《会場の解答》

【あい】

- ・対象に対して対価を求めないいつくしみ慕う感情
- ・親が子どもを思う心
- ・男女の恋心

- ・キリスト教における神が人に対して自身を犠牲にしていつくしむ心
- ・好意の濃密なもの
- ・大切に思う気持ち
- ・人やものに対して好き、大事にしたい、なつかしく思う感情
- ・この世界に存在するすべてのものに対して大切に思う気持ち
- ・上にあるもの、最上のもの（あい／うえお）
- ・対象に対して好意的に思い守りたいと思う気持ち
- ・人や物を慈しむ気持ち
- ・他とは違う感情をもち大切にしたいと思う気持ち
- ・互いにわかりあうこと
- ・心臓がどきどきするような気持ち
- ・人類世界を救うもの
- ・損得を考えずに相手を一番に思う気持ち

まずは『日本国語大辞典』を見てみます。

「親子、兄弟などが互いにかわいがり、いつくしみあう心。いつくしみ。いとおしみ。仏語。子供などをかわいがること。愛撫（あいぶ）すること。幼児をあやすこと。（品物などに）ほれこんで大切に思うこと。秘蔵して愛玩（あいがん）すること。顔だちや態度などがかわいらしくて人をひきつけること。あいきょう。人との応対が柔らかいさま。あいそ。キリスト教で、神が人類のすべてを無限にいつくしむこと。また、神の持っているような私情を離れた無限の慈悲。→アガペー。男女が互いにいとしいと思ひ合うこと。異性を慕わしく思うこと。恋愛。ラブ。また一般に、相手の人格を認識し理解して、いつくしみ慕う感情をいう。」

ものすごく言葉をつくしてたくさん説明していますね。それだけ、日本語で語るのは難しいということかもしれないですね。次に『岩波国語辞典』

「そのものの価値を認め、強く引きつけられる気持。」

こちらはあっさりと書かれています。『新明解国語辞典』は、

「個人の立場や利害にとらわれず、広く身のまわりのものすべての存在価値を認め、最大限に尊重していきたいと願う、人間に本来備わっているととらえられる心情。」

また、旺文社の辞書には、

「かわいがり、いつくしむ心。異性を恋慕う心。恋愛。」

とあります。

スペイン語の辞書の1、2番目に来る語義も見てください。

## 【amor】

1. Sentimiento intenso del ser humano que, partiendo de su propia insuficiencia, necesita y busca el encuentro y unión con otro ser.

(自らの不十分さから生じる、人との出会いや結びつきを探し求める人間の激しい感情。)

2. Sentimiento hacia otra persona que naturalmente nos atrae y que, procurando reciprocidad en el deseo de unión, nos completa, alegra y da energía para convivir, comunicarnos y crear.

(自然と自分をひきつける人、また、結びつきを望む中、相互作用を求めながら、自らの足りないところを補い楽しませてくれる人や、共に生き、気持ちを通わせ、物事を生み出すための力を与えてくれるような人への感情。)

*(Diccionario de la lengua española)*

1. Sentimiento de afecto, cariño y solidaridad que una persona siente hacia otra y que se manifiesta generalmente en desear su compañía, alegrarse con lo que considera bueno para ella y sufrir con lo que considera malo.

(人が相手に抱く愛着や連帯の感情。通常は、一緒にいたいと望んだり、相手にとっての幸せを喜び、相手にとっての不運をとともに苦しむ様子に現れる感情)

*(Diccionario Clave)*

スペイン語の辞書で最初に登場する語釈は「人」への愛です。さらに愛する対象にかなり具体的に言及しています。自分の欠陥を補うような具体的な相手を、自ら積極的に求めている印象です。こうして外国語の辞書と比較してみると、日本語の説明には、愛する相手として「親子」「兄弟」「子供」「幼児」「異性」「そのもの」「広く身のまわりのもの」等が示され、スペイン語よりも広く一般的であり、抽象的であるように感じられます。また、日本語には「かわいがる」「いつくしむ」「あやす」「大切に思う」「慕う」等、「愛」を表現する動詞が豊富にあることに改めて気がつきます。

では少し見方を変えまして、美術の分野では「愛」について、どのような説明がなされるのでしょうか。『岩波西洋美術用語辞典』を引いてみますと、

「愛：官能的な愛は、美の女神ウェヌスとその息子クピドの組合わせによって表される他、後者のみの有翼の少年の姿でも表される。キリスト教的な愛については「慈愛」の項を参照。」

「慈愛：7つの美德の一つ。擬人像としては、複数の子どもを伴い、その一部に乳を飲ませる女性として表される。」

とあります。分野や、文化、専門が変わると、それにもなって語釈もそれぞれ違ってくるということがよくわかります。

以上のように、抽象的な概念であっても、辞書に掲載するのであれば「言葉」にしなければならないということを感じていただけたでしょうか。

#### ◆最終問題「イケメン」

それでは、最終問題はこちら「イケメン」です。さあ、みなさん、どのように説明をしましょう。このような現代用語は、今後辞書に取り入れられていくことが予想されますので、今日みなさまが考えてくださった語釈が、今後、この語の定義の参考になるかもしれません。



それでは、答え合わせをしていきたいと思います。

《会場の解答》

#### 【いけめん】

- ・イケているメンズの略またはいわゆる二枚目
- ・主に魅力的な容姿の男性に対して使われる。対義語はブサメン
- ・女性が思うかっこよく容姿の整った男性また、見た目だけでなく性格上や行動に対する評価
- ・一般の男性よりも秀でて美しい魅力のある男性
- ・ハンサムな男性を軽く見ている言葉
- ・顔立ちが美しい男性
- ・顔や服装がとても魅力的である男性
- ・人に対して良い印象を与える
- ・見栄えのいい（容姿・言動）男性
- ・見ていたくなる人
- ・多くの人がかっこいいと思う人
- ・若者（男性）に対する評価のひとつ。どちらかといえば洋風
- ・女性などに対しても使われる
- ・イケてるの基準は顔だけでなく心なども含まれる

辞書にはこのように書かれております。『日本国語大辞典』にはまだ見出し項目がありません。『岩波国語辞典』には、

「男の顔がよいこと。そういう男。「いける（＝格好いい）」と「面」とからか。」とあり、まだ定義が固まっていないようです。『新明解国語辞典』は、

「「いける（かっこいい）」＋man（または「面）」からとされる。容姿端麗な男性。」

また、オンライン辞書である『デジタル大辞泉』には、

「『「いけ」は「いけてる」の略、「めん」は「面」と「men」を掛けた言葉。ふつう「イケメン」と書く』容貌、容姿ともに美しい男。かっこいい男。」

のようにありました。現代語として意味が定着しつつある語については、やはりこれからまだまだ語釈を考えていく余地があるといえるのではないのでしょうか。

みなさまおつかれさまでした。楽しんでいただけましたか。実際に語釈を考えてみることで、少しでも、辞書を編纂するということを実感していただけたでしょうか。もしさしつかえなければ、今日みなさまに書いていただいた語釈は、報告書のほうに掲載させていただきたいと思いますので、お帰りの際に、回収箱に入れていただければと思います。これでクイズコーナーを終わります。ありがとうございました。

#### ◆まとめ

時間が押していたので少し急ぎ気味ではありましたが、会場からたくさんの解答をいただき、にぎやかにコーナーをすすめることができましたと思います。辞書に語釈がどのように載せられているかを考え、辞書によって書かれ方が違う場合もあるということを経験し、また、日常生活の中で理解される「調べるまでもない単語」も辞書に載せられているということ、そのような単語でも辞書ならば「なにかしらの語釈」を与えなければならないということを考えることで、辞書を少しでも身近に感じていただけたならば幸いです。

#### <使用した辞書>

『新明解国語辞典』第二版 三省堂（1974年）

『旺文社国語辞典』第九版 旺文社（1998年）

『日本国語大辞典』第二版 小学館（2000年）

『岩波国語辞典』第七版 岩波書店（2011年）

『新明解国語辞典』第七版 三省堂（2011年）

スーパー大辞林 三省堂

デジタル大辞泉 小学館

『岩波西洋美術用語辞典』 岩波書店（2005年）

*Clave : diccionario de uso del español actual* (2006), Ediciones SM.

*Diccionario de la lengua española*, 22.<sup>a</sup> edición. (2001), Espasa Calpe.

*Diccionario Salamanca de la lengua española* (1996), Santillana.